

2025年4月27日（日）

第22回日本口腔ケア学会総会・学術大会
病院総合歯科医師研修委員会 企画講演
@朱鷺メッセ

日本口腔ケア学会 病院総合歯科医師育成プログラム制度 の概要紹介

日本口腔ケア学会 病院総合歯科医師研修委員会
九州大学大学院歯学研究院 総合診療歯科学分野
和田 尚久

第22回日本口腔ケア学会総会・学術大会
利益相反開示
2025年4月27日

九州大学大学院歯学研究院総合診療歯科学分野
和田 尚久

本講演に関連し、**開示すべき**利益相反関係にある企業などはありません。

病院歯科に求められる役割

	以前	現在
アプローチ	歯科単独での治療が主流	医科・多職種と連携したチーム医療が主流
治療内容	口腔外科的処置、 急性疾患への対応 「治す治療」	口腔機能管理、予防的口腔ケア、 口腔リハビリテーション 「支える治療」
患者	歯科的・口腔外科的疾患 のある患者	高齢者・全身疾患を有する患者

病院歯科に求められる役割

✓ 歯科処置・口腔外科的処置

顎顔面外傷、口腔がん、嚢胞、埋伏歯などの手術的処置
歯科診療所では対応困難な症例（紹介患者）

✓ 全身管理が必要な患者への歯科治療

心疾患、糖尿病、免疫疾患、重度の障害を持つ患者など、全身状態に配慮が必要な患者への歯科診療

✓ 入院患者の口腔機能管理

入院中の患者に対して、口腔衛生の管理や誤嚥性肺炎の予防
手術前や化学療法前など、周術期の口腔ケア（周術期口腔機能管理）

✓ 医科歯科連携・多職種連携

医師・多職種との連携によるチーム医療の一員としての役割
緩和ケアチームや感染対策チーム、栄養サポートチーム（NST）などへの参加

病院総合歯科医師研修（育成プログラム）制度

現状

歯科標榜のある病院：全体の約20%

常勤歯科医師 1 名で運営されている病院：約40%

（「2040年を見据えた歯科ビジョン」日本歯科医師会，2020年）



口腔ケアの重要性は認識されているが、歯科医師のいない病院では、入院患者一人一人の口腔機能管理を行うことは、現実的に困難

病院総合歯科医師研修（育成プログラム）制度

課題

- ✓ 歯科を併設する病院の増加促進
- ✓ 総合病院等でチーム医療に貢献できる歯科医師の育成

病院総合歯科医師研修（育成プログラム）制度の構築

参考：日本病院会の病院総合医育成事業

病院総合歯科医師研修（育成プログラム）制度

目的

病院において多様な病態を呈する患者に、**包括的かつ柔軟に**
対応できる総合的診療能力を有する歯科医師を育成すること

- ✓ 医科、介護、福祉等の分野と連携・調整できる歯科医師
- ✓ 多職種とともにチーム医療を実践できる歯科医師
- ✓ 地域包括ケアシステムにおける医療・介護の中心的役割を担える歯科医師
- ✓ 病院だけでなく地域医療に貢献できる歯科医師



病院総合歯科医師研修（育成プログラム）制度

到達目標

- **インテグレーションスキル**
医師や他の医療職と連携して多様な病態に対応できる幅広い知識や診断・治療
- **コンサルテーションスキル**
患者への適切な初期対応を行い、然るべき専門診療科への速やかな相談・依頼
- **コーディネーションスキル**
各医師、薬剤師、看護師、メディカルスタッフ、その他すべてのスタッフとの連携を重視
- **ファシリテーションスキル**
多職種協働による患者中心のチーム医療の活動
- **マネジメントスキル**
地域包括ケアシステムや日本全体の医療・歯科医療を考慮したチームメンバーとして病院運営

Integration
Consultation
Coordination
Facilitation
Management

病院総合歯科医師研修（育成プログラム）制度

基準

- **対象病院**：病院総合歯科医師育成を目指す病院。
病院総合指導歯科医師1名以上
- **研修対象者**：**卒後2年目**以降の歯科医師。「**病院総合専修歯科医師**」と称する
- **研修期間**：**2年間**（早期達成の場合は1年間も可）
- **研修受入人数**：病院総合指導歯科医師1名あたり**4名**程度
- **育成プログラム**：施設にて「**育成プログラム（カリキュラム）**」および「**チェックリスト**」を作成・申請し、認定を得る（認定料：**3万円**）
- **他施設研修**：自施設のみでの研修が困難な場合は、他施設で研修を行い、認定に必要な評価項目を達成させることができる

病院総合歯科医師研修（育成プログラム）制度

病院総合歯科医師認定までのフロー

病院総合歯科医師育成プログラム（カリキュラム）申請→審査・認定（様式1～3）

病院総合指導歯科医師申請→審査・認定（様式4）



育成プログラム（カリキュラム）認定料（3万円）納入（様式5）



病院総合専修歯科医師（病院総合歯科医師を目指す歯科医師）登録（様式6）



認定病院施設における**病院総合専修歯科医師**の研修および育成（原則2年間）



病院総合指導歯科医師による**病院総合専修歯科医師**評価（様式3）

病院総合歯科医師認定申請→審査・認定（様式7,8）



病院総合歯科医師認定料（1万6千円）の納入（様式9）

病院総合歯科医師研修（育成プログラム）制度

認定特例措置

病院総合指導歯科医師認定特例措置

対象：日本口腔ケア学会理事・評議員等

認定数：**111名**（2025/4/23現在）

更なる希望者を募っています

病院総合歯科医師研修（育成プログラム）制度

認定特例措置

病院総合歯科医師認定特例措置

対象：病院総合指導歯科医師の所属している施設に所属する **歯科医師免許取得後3年以上の歯科医師**

認定要件：

研修プログラムチェックリスト1～3（**様式3**）を各施設の機能に合わせて作成



これを用いて、**対象歯科医師**がこれまでに経験した臨床項目を記入いただき、**病院総合指導歯科医師**が確認・評価する。

病院総合歯科医師研修（育成プログラム）制度

研修プログラムチェックリスト1～3（様式3）

- **インテグレーションスキル**
医師や他の医療職と連携して多様な病態に対応できる幅広い知識や診断・治療
- **コンサルテーションスキル**
患者への適切な初期対応を行い、然るべき専門診療科への速やかな相談・依頼
- **コーディネーションスキル**
各医師、薬剤師、看護師、メディカルスタッフ、その他すべてのスタッフとの連携を重視
- **ファシリテーションスキル**
多職種協働による患者中心のチーム医療の活動
- **マネジメントスキル**
地域包括ケアシステムや日本全体の医療・歯科医療を考慮したチームメンバーとして病院運営

Integration
Consultation
Coordination
Facilitation
Management

研修プログラムチェックリスト1～3（様式3）

日本口腔ケア学会 病院総合歯科医師育成プログラムチェックリスト 1/3				
				2025年4月 Ver. 1.2
病院総合専修歯科医師 氏名				
記入不要				
<p>※1 病院総合専修歯科医師が経験する内容のうち、日本口腔ケア学会病院総合歯科医師研修委員会が「◎＝必須、○＝推奨」と指定する内容を示しています。</p> <p>※2 チェックリスト1/3の45のスキルのうち、日本口腔ケア学会病院総合歯科医師研修委員会が「○＝推奨」としている項目から、それぞれ3項目以上を「◎＝必須」として設定してください。また、病院の特色を踏まえた個別項目があれば空欄に追加してください。病院個別項目を必須とすることも可能です。</p> <p>※3 病院総合歯科医師は全ての必須項目と推奨項目から3項目以上を経験し、「※3経歴」欄にチェックをしてください。</p> <p>※4 病院総合指導歯科医師または病院管理者が経験の確認を行い、チェックしてください。病院総合歯科医師認定申請時には全ての欄を記入し、提出してください。</p> <p>※5 チェックリスト2/3と3/3の症候・症例については、可能な限り直近で経験した年（西暦）と経験した施設名（略称可）を記入してください。</p>				
<p>1. 多様な病態に対応できる幅広い知識や診断・治療によって包括的な医療を展開・実施できる。（インテグレーションスキル）</p> <p>2. 患者への適切な初期対応を行い、専門的な協業・治療が必要な場合には、然るべき専門診療科への速やかな相談・依頼を実施できる。（コンサルテーションスキル）</p>				
経験する内容				
高い倫理観、人間性、社会性をもって総合的な医療を展開する。	◎	◎		
口腔ケアセンターもしくはそれに準ずる機能を有する病院において総合歯科外来診療を担当する。	◎	◎		
診断確定及び初期治療は原則として自らが実施する。	◎	○		
治療または病院診療の終了（逆紹介を含む）までのプロセスを可能な限り担当する。	○	○		
口腔の多様な疾病に対して、1日を通した外来診療を企画しに置き診療を行う。	○	○		
患者の入院期間全体を通じて、効率的な検査・治療の日程を計画し、入院期間を適切に設定する。	○	○		
患者の社会的背景、心理面、倫理面を含めた多様な問題について討議し、退院後の患者の療養場所の検討を行う。	◎	◎		
職種全体の患者の歯科治療や口腔ケアを含む口腔管理を適切に行う。	◎	◎		
日本口腔ケア学会認定資格3・4・5級を取得する。	◎	◎		
卒業5年以上でJCDの資格を取得する。	○	○		
<p>3. 各専門科医師、薬剤師、看護師、言語聴覚士、歯科衛生士、メディカルスタッフ、その他の全てのスタッフとの連携を重視し、その調整者としての役割を果敢できる。（コーディネーションスキル）</p>				
経験する内容				
定期的なラウンドやカンファレンス・研修会に参加する。	○	○		
患者の状況に応じた判断に基づき、必要な職種を招集し適切な対応を行う。	○	○		
各種カンファレンスに参加して専門家として発言する。	◎	◎		
患者の病態改善について常に意識して話し合える職場環境を作る。	○	○		
臨床倫理の問題について常に意識して話し合える職場環境を作る。	◎	◎		
医療スタッフ全体の現状把握し、適切な対応を助言する。	◎	◎		
医師としての役割を果敢と果たす。	○	○		

研修プログラムチェックリスト1（様式3）

4. 多職種協働による患者中心のチーム医療の活動を促進・実践できる。 （ファシリテーションスキル）

経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認
医療安全管理チームへの参加	○	○	✓	✓
感染制御チームへの参加	○	○		
栄養サポートチームへの参加	○			
緩和ケアチームへの参加	○			
口腔ケアチームへの参加	◎	◎	✓	✓
呼吸サポートチームへの参加	○			
摂食・嚥下チームへの参加	○	◎	✓	✓
褥瘡対策チームへの参加	○			
退院支援チームへの参加	○			
認知症サポートチームへの参加	○			
耳鼻咽喉科カンファに参加		○	✓	✓
ICUカンファに参加		○	✓	✓

「○＝推奨」としている項目から、それぞれ3項目以上を「◎＝必須」あるいは、「○＝推奨」として設定。
また、病院の特色を踏まえた個別項目があれば空欄に追加。
→合計4項目以上を経験すればOK

病院総合歯科医師研修（育成プログラム）制度

認定特例措置

病院総合歯科医師認定特例措置

対象：病院総合指導歯科医師の所属している施設に所属する**歯科医師免許取得後3年以上の歯科医師**

認定要件：

研修プログラムチェックリスト1～3（様式3）を各施設の機能に合わせて作成



これを用いて、**対象歯科医師**がこれまでに経験した臨床項目を記入いただき、**病院総合指導歯科医師**が確認・評価する。



申請

来年以降の国家試験合格者は通常の認定制度
特例措置期間：2028年3月までを予定（3年間）

病院総合歯科医師研修（育成プログラム）制度**認定****病院総合歯科医師**

- ✓ 一般社団法人日本病院会にリスト提出 (<https://www.hospital.or.jp/>)
- ✓ 一般社団法人日本口腔ケア学会HPに掲載 (<http://www.jmdn.org/index.html>)
- ✓ 特定非営利活動法人日本医学歯学情報機構HPに掲載
(<https://www.oralcare-jp.org/>)

病院総合指導歯科医師

- ✓ 一般社団法人日本口腔ケア学会HPに掲載
- ✓ 特定非営利活動法人日本医学歯学情報機構HPに掲載

申請方法については、日本口腔ケア学会会員メールおよび

HPであらためて周知いたします。

申請をいただきますよう宜しくお願い致します。

日本口腔ケア学会 病院総合歯科医師研修委員会

委員長 和田 尚久

副委員長 梅田正博

副委員長 松浦信幸